

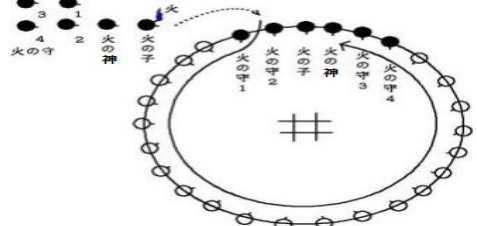
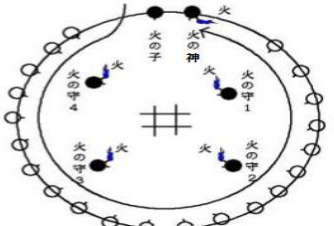
キャンプファイアの進行例

役割分担

	内 容	人 数	備 考
火の神	・セレモニー第Ⅰ部と第Ⅲ部で「火の神の言葉」を言い、点火宣言をする	1人	団体代表者や年長者など
火の守	・セレモニー第Ⅰ部で分火の時に火の神より火をもらう // 誓いの言葉を言い、点火する ・セレモニー第Ⅲ部で分火の時の火の神より火をもらう // 感想や希望、抱負などを言う	4人 ～ 8人	第Ⅰ部と第Ⅲ部で担当を代えてもよい
火の司(司会)	・司会進行、第Ⅱ部のプログラミング	1～4人	

第Ⅰ部 迎え火のつどい

(10～15分)

展 開	プ ロ グ ラ ム の 進 行	備 考
1 係準備	火の神等配置	
2 集 合	全員玄関前に集合	
3 入 場	曲が流れたら、全員静かに入場 営火台を囲むように円になって腰をおろす。	BGM: 静かでゆったりとした曲 例えば「シンキングオブユー」
4 開会の言葉	○司会: 「あっという間に1日目の夜になりました。まもなく暗闇からトーチの火が近づいてきます。そして、きれいな炎が皆さんの横顔を照らしてくれることでしょう。炎を見つめながら今日のことを思い出してください。炎は皆さんの未来を明るく照らしてくれる希望の光です。さあ、希望の光をみんなで迎えましょう。」	BGM: おこそかでゆたかな曲 例えば「ジュビター」
5 聖火入場	・円の中に入り左まわりにゆっくりと一巡し、位置に付く。 ・入場整列後、火の子は火の神にトーチを渡す。 	
6 火の神の言葉	○司会: 「聖なる火を迎えることができました。ここで火の神からお言葉をいただきます。」 ○火の神: 「(火の歴史、火のすばらしさなど)」 (火の子から渡されたトーチを上にかかげ、一歩前に出てから、ゆっくりと大きな声で話をする。)	
7 分 火	○司会: 「火の神から、火の守に火を分けてもらいます。」 ※火の守は順に分火してもらい、営火台のまわりにならぶ。	
8 火の守の言葉	○司会: 「火の守は前へ出て、誓いの言葉を言ってください。」 (火の守は順に一歩前に出て、トーチを高くかかげたままで誓いの言葉を述べる) ○火の守1: 「友情の火。思いやりを忘れず、友達を大切にすることを誓います。」 ○火の守2: 「健康の火。これからも、健康であることを誓います。」 ○火の守3: 「努力の火。何事にも常に努力を続けていくことを誓います。」 ○火の守4: 「希望の火。今日の良き日を忘れず、一步一步前進することを誓います。」	
9 点火宣言	○司会: 「火の神から点火を宣言していただきます。」 ○火の神: 「点火！」	「もえるもえる」を全員で歌う 歌の代わりにBGMとしてモーツァルトの「ホルン協奏曲」等でもよい。
10 点 火	○司会: 「私たちの友情の炎は赤々と燃え上がりました。燃える炎、それは情熱であり、希望を照らす明るい炎です。しばらく燃え上がる炎を見つめましょう。」	

第Ⅱ部 交歓のつどい

(60～70分)

司会：「いつまでも思い出に残るすばらしい夜となるよう、みんなでつくりあげていきましょう。次は交歓のつどいです。ゲームや班ごとの出し物を通して、楽しく過ごしましょう。」
※歌・レクリエーション・フォークダンス・出し物やスタンツなど、全員で楽しめるように事前に準備しておく。

第Ⅲ部 送り火のつどい

(15～20分)

展 開	プ ロ グ ラ ム の 進 行		備 考
1 火の神等整列	火の神、火の守は正面に整列。		
2 第3部開始	《トーチサービスをやらない場合》 (火の子は、トーチに中央の火から点火して火の守に渡す) 1 火の長の言葉 司会：「火の神からお言葉をいただきます。」 火の神：「(今日一日を省みて、希望に向かって前進するような内容の話をする。)」 2 分火 司会「火の神から火の守に、聖なる火を分火していただきます。」 (火の守は順にトーチに分火してもらい、堂火台の回りに並ぶ)	《トーチサービスをやる場合》 司会「大きく燃え上がっていた炎も小さな残り火になってしまいました。みなさんにこの火をお分けします。」 1 トーチサービス (火の守・子中央の火から渡して、みんなのトーチに火をつける) 2 献詩 司会：「ひとつひとつは小さな明かりが集まると、こんなに大きな光の輪ができました。ここで、代表の人から詩の朗読をしてもらいます。」 詩の朗読：「……………」	BGM： 静かで夢のある曲 例えば「ホールニューワールド」 献詩は省略してもよい。 献詩BGM例： 「タイムトゥセイグバイ」
	3 火の守の言葉 司会「火の守が言葉を述べます。」 (火の守は順に一歩前に出て火を高くかけたまま述べる) ①「キャンプファイアの炎が大きくて、きれいで感動しました。」 ②「オリエンテーリングの時、みんなに励ましてもらいました。うれしかったです。」 ③「野外炊さんで、進んで仕事をしている人がたくさんいました。力を合わせて作ったのでおいしいカレーライスができました。」 ④「一緒に活動した仲間とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。」	3 火の神の言葉 司会「火の神からお言葉をいただきます。」 火の神：「……………」	※隊形は第Ⅰ部と同様
	4 火文字点火 司会：「〇〇(火文字の言葉)の火の点火です。火の守は火文字の前に移動してください。」 火の神：「〇〇の火に点火せよ」 司会：「しばらく、〇〇が浮かび上がる炎を見つめましょう」		※火文字を行う団体のみ
	司会：「楽しいひとときも過ぎ、お別れのときがきました。赤々と燃え上がった友情の炎はみなさんの心の中で燃え続け、勇気と希望を与えてくれることでしょう。最後にみんなで“今日の日はさようなら”を歌いましょう。」		
4 別れの歌	歌：「今日の日はさようなら」		BGM： 「今日の日はさようなら」
5 友情の握手 (退場)	入場の逆まわりで、握手しながら、火の子・神・守が退場。その後、握手しながら全員退場。		

火の神、火の守のことば（例）



◎ 火の神のことば

＜第Ⅰ部 迎え火のつどい＞

＜例1＞

真っ赤な太陽が日本海の波間に沈み、ここにも夜のとばりがおろされました。そして、今ここに聖なる火が運ばれてきました。この火は、ギリシャの昔、オリンポスの神々の中の一人が空高く舞い上り、太陽の火を「よしのずい」に点火して地上に持ち帰り、人間の世に伝えたと言われています。そして、この火が人類の幸を願いながら素晴らしい文化を築いてきたものです。私たちも、その火をしっかりと心にとどめながら火を点じ、今宵楽しく過ごしたいと思います。

＜例2＞

火は脈々たる人類の文化の象徴であり、若人の意気と力を示すものであり、いつまでもみんなの胸に燃え続けることでしょう。人間の限りない生命、たくましく想像の力、世を照らす不屈の光、平和の光となるようにいつまでもいつまでも燃やし続けましょう。

＜第Ⅲ部 送り火のつどい＞

＜例1＞

私たち全員は心を合わせ、今日の日を楽しく過ごせたことをお互いに喜びたいと思います。これからみなさんにおわちする「火」を心の内にともし続け、わが家、わが校舎に持ち帰り、いつまでもともし続けてください。さあ、新しい希望に向かってたくましく歩みだそうではありませんか。

＜例2＞

楽しいつどいも終わろうとしている。中央の炎を見つめよう。この炎を見つめているうちに、いろいろなことが浮かんでくる。一人の力は弱いものである。しかし、我々がそれぞれの力を精一杯出して同じ目的に向かったとき、それは赤々とした炎となる。明日からまたともしびとなり、温かく清らかに君たち一人一人の胸に燃え続けていくであろう。これが、火の長の贈る終わりのことばである。

◎ 火の守のことば（第Ⅰ部）

＜例1＞

- ① いつも規律を守って生活することを誓います。
- ② どんなときでも力を合わせてがんばることを誓います。
- ③ いつも奉仕の気持ちで働くことを誓います。
- ④ 友達同士仲良く助け合うことを誓います。

＜例2＞

- ① 友情を大切にすることを誓います。
- ② 誠実な人間になることを誓います。
- ③ 社会に尽くす人間になることを誓います。
- ④ 自然を大切にすることを誓います。

◎ 火の守のことば（第Ⅲ部）

例1＞

赤々と燃え続けた火は、今終わろうとしています。この火は消えても、お互いの心の中に燃える火は消えることなく、私たちのこれからの生活に励ましと勇気を与えてくれることでしょう。私の持っている火を見てください。そして、この輝きを心にしっかりと刻み、お互いに力を合わせて前進しましょう。

例2＞

赤々と燃えたキャンプファイアは、私の心を強くつかみ放さない。天高く舞い上がった火の粉…、夜空の星…、仲間と手をつなぎ、肩を組みながら踊った踊りの数々は、とても楽しく忘れることができません。皆さん本当にありがとう。さあ、この感激を忘れずにこの熱い友情を大切に、明日からまたしっかりがんばろう。